

『安全教育手法の開発・普及』  
【防災教育の視点を取り入れた教育課程の編成】

平成30年2月2日(金)  
佐伯市教育委員会

# 佐伯市の規模及び学校の状況



◇人口 73,437人

◇学校数（平成29年5月1日現在）

- ・幼稚園 17園 284人（私立幼稚園 4園）
- ・小学校 19校 3,219人
- ・中学校 12校 1,743人
- ・高等学校 2校 1,227人（私立高等学校 1校）



佐伯市立八幡小学校・佐伯市立彦陽中学校  
(平成29年度大分県防災教育モデル実践事業モデル校)  
の取組

「ふるさと」とともに未来を拓く  
児童・生徒の育成  
～思考力・判断力・表現力の育成をめざして～

# 学校の立地条件



戸穴川

## 佐伯市立八幡小学校 彦陽中学校

大分県の南東部に位置する。北は旧上浦町に隣接し、東に佐伯湾を臨む。

南海トラフ巨大地震の発生に伴い想定される浸水域は、八幡小学校が1.0m以上～2.0m未満、彦陽中学校0.0m以上～0.5m未満「佐伯市津波ハザードマップ」(平成25年3月作成)

児童生徒の通学路や居住する校区に目を向けると10.0m以上の想定がされている地域が広がっている。

# 学校を核とした「ふるさと創生事業」



「総合的な学習の時間」

カリキュラムづくり



## 防災教育の位置づけ

- ①全体構想図
- ②ねらいや付けたい力
- ③総合的な学習の時間 単元指導計画 及び  
防災教育の単元計画【15時間】



# 12年間を見通した、生活科及び総合的な学習の時間における育成を目指す資質・能力系統表(案)

佐伯市教育委員会  
学校を核とした「ふるさと創生プラン」作成会議  
平成29年1月24日

## 「ふるさと創生事業」で目指す姿 ふるさとを愛し、ふるさとの未来を創造する力

### 校種、段階における学びの連続性

校種	小学校	中学校	高等学校		
段階	ふるさとにふれる	ふるさとを感じて・知る	ふるさとについて考え・伝える	ふるさととともに未来を描く	ふるさとに向けて行動に生かす

視点	資質・能力が身についた児童・生徒の全体像	資質・能力が身についた児童・生徒の姿			
----	----------------------	--------------------	--	--	--

何を理解しているか、何ができるか (生きて働く「知識・技能」の習得)	知識・技能	○ふるさとのもの・人やそれらに対する思い・願いを理解している。 ○探究の過程に応じた技能を身につけている。	ふるさどには何があるか、それがどのような関係にあるか気付く。 自分自身の成長に気付く。 活動や体験を通して、習慣や技能を身につけている。	ふるさどには何があるか、その特徴がわかる。 情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身につけている。	ふるさどで暮らす人々やその土地の良さがわかる。 情報を比較・分類・関連づけるなど、探究の過程に応じた技能を身につけている。	ふるさとと社会との関わりがわかる。 情報を比較・分類・関連づけ、多面的にみるなど、探究の過程に応じた技能を身につけている。	ふるさとと自分との関わりがわかる。 情報を比較・分類・関連づけ、多面的・構造化するなど、探究の過程に応じた技能を身につけている。	
	理解していること・できることをどう使うか (未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)	課題の設定	○物事を多面的に見たり考えたりして、課題を設定し追究している。	ふるさどに関心を持っている。身体全体でふるさとと関わっている。	自分の関心からふるさどについての課題を設定し、解決方法を考え、見直しを持って追究している。	ふるさどへの思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見直しを持って追究している。	ふるさとと社会との関わりを考えて課題を設定し、仮説を立てて検証方法を考え、追究している。	ふるさとの未来に向けた課題を設定し、立てた仮説に適合した検証方法を明示して追究している。
		情報の収集	○多様な着眼点から情報を収集している。	すんでもふるさとに働きかけている。	教師の支援により手段を選択し、情報を収集している。	自分なりの手段を選択し、情報を収集している。	目的に応じて手段を選択し、情報を収集している。	目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集している。
		整理・分析	○自分の考えを、経験や知識と結びつけて分類・整理するなどして情報を扱っている。	比較したり分類したりして対象を捉えている。 違いに気付いたり良さを生かしたりして他者と関わったり、試したり予測したりして創造している。	問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。	問題状況における事実や関係を、整理した情報を関連づけて理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。	複雑な問題状況における事実や関係を、事象を比較したり因果関係を推論したりして理解し、視点を定めて多様な情報を分析している。	複雑な問題状況における事実や関係を、比較したり因果関係を推論したりして自分の考えを形成し、視点を定めて多様な情報から論理的・演繹的に考えている。
		まとめ・表現	○目的や意図に応じて、効果的に自分の考えをまとめ、表現している。	まとめたものを相手に伝えたり、交流したりして、表現している。	相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。	相手や目的、意図に応じてわかりやすくまとめ、表現している。	相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。	相手や目的、意図に応じて根拠を示して論理的に表現している。
		ふり返り	○探究の過程をふり返り、自己の学びを深めている。	活動や体験をふり返り、生活に生かそうとしている。	学習したことをふり返り、生活に生かそうとしている。	学習の仕方やふり返り、学習や生活に生かそうとしている。	学習の仕方や進め方をふり返り、学習や生活に生かそうとしている。	学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとしている。
どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか (学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)	主体性	○より高い目標を立て、努力しようとしている。		課題の解決に向けて、探究活動に取り組もうとしている。	課題の解決に向けて、探究活動に意欲を持って取り組もうとしている。	課題に誠実に向き合い、解決に向けて探究活動に意欲を持って取り組もうとしている。	課題に真摯に向き合い、より適切な解決に向けて探究活動に取り組もうとしている。	
	自己理解	○自分の長所や短所を理解し、自己の生き方を考えている。	自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもって生活しようとしている。	自分のよさや自分の得意なこと、自信をもち、課題解決に向けて取り組んでいる。	自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、課題解決に向けて取り組んでいる。	自分のよさを生かしながら探究活動に向き合い、責任をもって探究活動に取り組んでいる。	自分の特徴を生かし当事者意識を持って探究活動に向き合い、計画的に探究活動に取り組んでいる。	
	内面化	○経験したことを自分に生かし、次の課題に取り組もうとしている。		探究的な課題解決の楽しさや味わい、次の課題に取り組もうとしている。	探究的な課題解決の経験に自信につなげ、次の課題に取り組もうとしている。	探究的な課題解決の経験を自己の成長と結びつけ、次の課題へ積極的に取り組もうとしている。	探究的な課題解決の経験の蓄積を自己肯定へとつなげ、さらに高次の課題に取り組もうとしている。	
	協同性(協働性)	○課題解決に向けて、他者と力を合わせて考え、実行しようとしている。	身近な人々やふるさとに関わり、集団や社会の一員として適切に行動しようとしている。	課題解決に向けて、身近な人と協働して探究活動に取り組んでいる。	課題解決に向けて、他者と協働して探究活動に取り組んでいる。	課題解決に向けて、互いの特徴を生かして協同的に探究活動に取り組んでいる。	課題解決に向けて、互いを認め特徴を生かし合い、協同的に探究活動に取り組んでいる。	
	他者理解	○自分と異なる意見に耳を傾け、様々な立場の人から学ぶようとしている。	身近な自然と関わり、自然を大切にしたり、遊びや生活を豊かにしたりしようとしている。	自分と異なる意見や考えがあることを知り、探究活動に取り組もうとしている。	異なる意見や他者の考えを受け入れながら、探究活動に取り組もうとしている。	異なる意見や他者の考えを受け入れながら、探究活動に向き合い、互いを理解しようとしている。	異なる意見や他者の考えを受け入れながら、探究活動に向き合い、互いを尊重し理解しようとしている。	
	地域貢献	○伝統・文化の継承、ふるさと・社会との繋がりを発展について考えている。		自分とふるさととのつながりに気づき、ふるさとの活動に参加しようとしている。	自分とふるさととのつながりを考えながら、進んでふるさとの活動に参加しようとしている。	ふるさとと自分・社会とのつながりを考えながら、積極的にふるさとの活動に参加しようとしている。	ふるさとと自分・社会とのあり方を考えながら、よりよい社会の実現に向けて活動に参加しようとしている。	

三つの柱に沿って整理

# 全体構想図

佐伯市立八幡小学校

「ふるさと」とともに未来を拓く児童の育成  
～思考力・判断力・表現力の育成をめざして～

自己決定力  
コミュニケーション力  
行動力

## 防災教育

6学年「防災を考える思いをつなごう」



5学年「防災時の困りと備えについて考えよう」



4学年「防災にかかわる人から学び地域の防災について考えよう」



3学年「防災レンジャーになって防災について学ぼう」

## 地域教育

6学年「地域から世界の人とつながろう」



5学年「米づくり体験から学ぼう」



4学年「地域の自然・環境について学ぼう」



3学年「芋作り体験から学ぼう」

## キャリア教育

6学年「お世話になった人に感謝しこれからの生き方を考えよう」



5学年「地域産業に携わる人の思いを知り自分を見つめよう」



4学年「地域のために働く人の思いを知ろう」



3学年「伝統・文化を守る人から学ぼう」

「ふるさと」を知り、ともに未来を拓く  
(地域・協働・感謝・郷土)

主体的・探究的な子どもの活動

# 全体構想図

佐伯市立彦陽中学校

「ふるさと」とともに未来を拓く生徒の育成  
～思考力・判断力・表現力の育成をめざして～

立志・自己実現

防災教育

3学年「防災について探求し、実践しよう（探求・発信③）」

2学年「防災について考えを深めよう（探求・発信②）」

1学年「防災について知り、考えよう（探求・発信①）」

地域教育

3学年「地域と協働し、地域興しを考えよう」

2学年「地域の内外を知り、地域を見直そう」

1学年「地域を知ろう（産業・暮らし・自然）」

キャリア教育

3学年「自分の将来を見つめよう（福祉・職場体験学習）」

2学年「自分の将来について考えよう（職業人講話・上級学校調べ）」

1学年「自分の適性を知ろう（キャリアインサイト、PASカード）」

「ふるさと」とともに未来を拓く  
（地域・協働・感謝・郷土）

主体的・探究的な生徒の活動



# ねらいや付けたい力

## H29 八幡小学校・彦陽中学校「総合的な学習の時間 付けたい力一覧表」

目標:「ふるさと」とともに未来を拓く生徒の育成 ～思考力・判断力・表現力の育成をめざして～

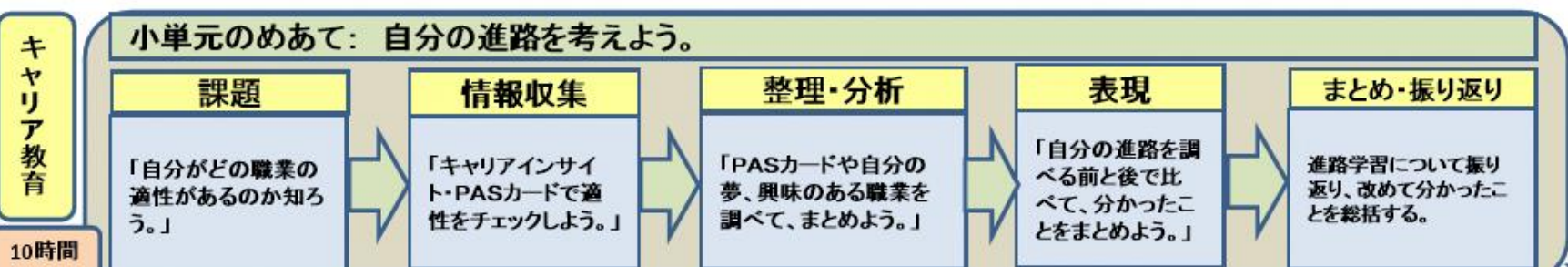
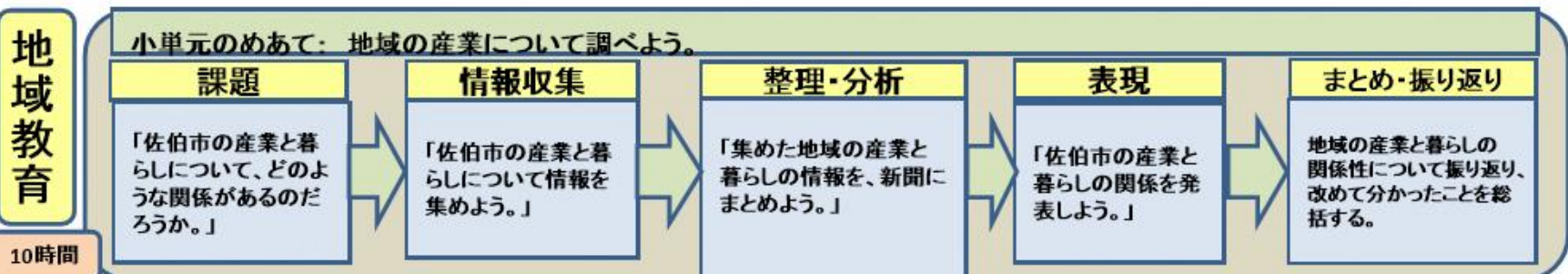
視点	資質・能力が身についた生徒の姿
生きて働く「知識・技能」の習得(何を理解しているか、何ができるか)	知識・技能(A①) 『ふるさと』と社会との関わりがわかる。情報を比較・分類・関連づけ・多面的にみるなど、探究の過程に応じた技能を身につけている。
未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成(理解していること・できることをどう使うか)	課題の設定(B①) 『ふるさと』と社会との関わりを考えて課題を設定し、仮説を立てて検証方法を考え、追究している。
	情報の収集(B②) 目的に応じて手段を選択し、情報を収集している。
	整理・分析(B③) 複雑な問題状況における事実や関係を、事象を比較したり因果関係を推論したりして理解し、視点を定めて多様な情報を分析している。
	まとめ・表現(B④) 相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。
	ふり返り(B⑤) 学習の仕方や進め方をふり返り、学習や生活に生かそうとしている。
学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)	主体性(C①) 課題に誠実に向き合い、解決に向けて探究活動に進んで取り組もうとしている。
	自己理解(C②) 自分のよさを生かしながら探究活動に向き合い、責任をもって探究活動に取り組んでいる。
	内面化(C③) 探究的な課題解決の経験を自己の成長と結びつけ、次の課題へ積極的に取り組もうとしている。
	協働性(C④) 課題解決に向けて、互いの特徴を生かして協同的に探究活動に取り組んでいる。
	他者理解(C⑤) 異なる意見や他者の考えを受け入れながら、探究活動に向き合い、互いを理解しようとしている。
	地域貢献(C⑥) 『ふるさと』と自分・社会とのかかわりを考えながら、積極的に『ふるさと』の活動に参加しようとしている。

# 総合的な学習の時間の単元計画

## 彦陽中学校総合的な学習の時間の単元計画【第1学年】

単元のねらい： ふるさと彦陽の地域に感謝し、産業に学び、防災・減災に向けて家庭・地域と協働することを通して、郷土を愛し、ふるさとと自分自身の明るい未来の実現に向け、主体的に取り組んでいこうとする姿勢を育み、探求的に実践できる資質を養う。

単元のめあて： 「ふるさと」彦陽とともに未来を拓こう。～自ら考え判断し行動できるようになろう～





# 総合的な学習の時間の単元計画

## 彦陽中学校総合的な学習の時間の単元計画【第1学年】

単元のねらい：ふるさと彦陽の地域に感謝し、産業に学び、防災・減災に向けて家庭・地域と協働することを通して、郷土を愛し、ふるさとと自分自身の明るい未来の実現に向け、主体的に取り組んでいこうとする姿勢を育み、探求的に実践できる資質を養う。

単元のめあて：「ふるさと」彦陽とともに未来を拓こう。～自ら考え判断し行動できるようになろう～

防災教育

15時間

地域教育

10時間

キャリア教育

10時間

課題

情報収集

整理・分析

表現

まとめ振り返り

# 防災教育の単元計画【15時間】

- ・小1、小2＝生活科
- ・小3～中3＝総合的な学習の時間

## 彦陽中学校 第1学年 防災教育15時間の単元計画

単元名	【防災について知り、考えよう（探求・発信①）】（15時間） 「お家の方に、家庭に必要な防災準備を知らせよう！」				
ねらい 計画	地震や津波に対する心構えや日頃からの準備について知ることによって防災意識を高め、率先避難者としての態度を育てる。				
	小単元	付きたい力	各時間の学習内容 小単元の学習活動	評価方法	
6～7月 【3H】	【課題の設定】 「地震や津波について知ろう」	B①	「学年防災学習①」 東日本大震災や南海トラフ地震とその津波による災害のおおまかな想定（被害の状況、災害予想規模など）を知り、現状についての課題（家庭における準備など）を知る。	東日本大震災の再現ドラマや、南海トラフ地震の災害想定ビデオを視聴し、学習に向かうレディネスを高める。 被災地訪問に向けた事前調べ学習を通して、東北の被災の状況を知り、今後の防災を考えるきっかけとする。 前回グループで調べ学習した内容を共有し、訪問先の被災の状況を詳しく知り、防災意識を高める。	振り返りシート ワークシート 振り返りシート
9月 【4H】	【情報の収集】 「必要な防災準備について情報を集めよう」	B② C①	「学年防災学習②」 防災学習①で学んだ内容や、さらにネット上の情報や、公開されているハザードマップや防災情報を収集したり、家庭で聞き取り調査したりすることで自分たちの周りの現状と課題を把握する。	これまでの学習や訪問団からの還流をもとに、ワークシートを活用して、「防災家庭状況シート」の内容を検討する。 作成した「防災家庭状況シート」を使い、それぞれの家庭の現状を知り、課題をとらえる。 聞き取り調査した、それぞれの家庭の現状と課題をグループや学級で交流し、出し合う。 聞き取り調査した、それぞれの家庭の現状と課題をグループや学級で交流し、精査する。	ワークシート 防災家庭状況シート グループ討議シート グループ討議シート
10月 【4H】	【整理・分析】 「集めた防災準備の情報を整理し、まとめよう」	B③ C④、C⑤	「防災教育事前授業」 防災学習①と②で調べたり、聞いたことについて、マトリクスやYチャートを用いて整理したり、重要度・緊急度などの視点を決めて、座標軸で分析し、今後の取組の方向性を考える。	交流した内容をもとに、今後家庭に伝えるべき防災準備について、適切な思考ツールを用いて整理する。 交流した内容をもとに、今後家庭に伝えるべき防災準備を、適切な思考ツールを用いてさらに整理し、まとめる。 整理し、まとめた伝えるべき防災準備についての発表に向け、準備を進める。 伝えるべき防災準備についての発表準備について、さらに伝わりやすくなるよう工夫を重ねて進める。	思考ツール 「Yチャート、PMI」 思考ツール 「マトリクス」 プレゼン プレゼン
11-1月 【4H】	【まとめ・表現】 「家庭に必要な防災準備を知らせよう」	A① B④、B⑤ C④、C⑤、 C⑥	「防災教育公開授業及び事後・総括」 これまでの学習で取り組んできた、GTの講話などについて考えたりしたことについて協議してまとめ、家庭や地域に発信し総括する。	準備してきたプレゼンについて、さらに改善を加え、家庭や地域に伝わりやすくなる工夫をする。 家族や地域の方々に向けて、防災準備についてのプレゼンを行う。 振り返りシートを用い、自分たちのプレゼンについて自己評価したり、相互評価したりする。 今年の防災学習の成果と課題を振り返り、次年度の課題設定への足がかりとする。	プレゼン プレゼン 振り返りシート 振り返りシート



# 防災教育の単元計画【15時間】

- ・小1、小2＝生活科
- ・小3～中3＝総合的な学習の時間

## 彦陽中学校 第1学年 防災教育15時間の単元計画

単元名	【防災について知り、考えよう（探求・発信①）】（15時間） 「お家の方に、家庭に必要な防災準備を知らせよう！」		
ねらい 計画	地震や津波に対する心構えや日頃からの準備について知ることによって防災意識を高め、率先避難者としての態度を育てる	小単元	付きたい力
6～7月 【3H】	【課題の設定】 「地震や津波について知ろう」	B①	「学年防災学習①」 東日本大震災や南海トラフ地震とその津波による災害のおおまかな想定（被害の状況、災害予想規模など）を知り、現状についての課題（家庭における準備など）を知る。
9月 【4H】	【情報の収集】 「必要な防災準備について情報を集めよう」	B② C①	「学年防災学習②」 防災学習①で学んだ内容や、さらにはネット上の情報や、公開されているハザードマップや防災情報を収集したり、家庭で聞き取り調査したりすることで自分たちの周りの現状と課題を把握する。
10月 【4H】	【整理・分析】 「集めた防災準備の情報を整理し、まとめよう」	B③ C④、C⑤	「防災教育事前授業」 防災学習①と②で調べたり、聞いたことについて、マトリクスやチャートを用いて整理したり、重要度・緊急度などの視点を決めて、座標軸で分析し、今後の取組の方向性を考える。
11～1月 【4H】	【まとめ・表現】 「家庭に必要な防災準備を知らせよう」	A① B④、B⑤ C④、C⑤、 C⑥	「防災教育公開授業及び事後・総括」 これまでの学習で取り組んできたことやGTの講話などについて考えたりしたことについて協議してまとめ、家庭や地域に発信し総括する。

学習内容

評価方法

彦陽中学校 総合的な学習の時間（防災教育）  
**第2学年 防災学習指導案**

学習日時	11月16日（木）曜日 5限目	
学年防災教育15時間分の単元名	「防災について考えよう（探求・発信②）」 彦陽校区の防災マップを作ろう	10時間目／15時間
学習のプロセス	知る（課題設定） ・ 探求（情報収集・分析） ・ 協働・発信（まとめ・表現） ※該当するものに○	
今回のプロセスのねらい	安全に避難する方法について～分析することを通して～	2時間目／6時間
本時のねらい	情報をまとめたマップを用いて、安全に避難するにはどうしたらよいか考える。	
つきたい力	自分たちの地域に災害が発生したとき、安全に避難する方法を考える。	

<本時のながれ>

学習内容 (生徒の活動)	時間 (分)	指導及び指導上の留意点	つきたい力 【A①～C⑥】	備考（教具・教材など）
めあて・課題 ・前時をふり返る  ・めあてを知る	3  3	○前時に考えた自分の地域の災害時の課題を確認させる。 ・本時のめあてを提示する。		ワークシート マップ
情報をまとめたマップを用いて、安全に避難するにはどうしたらよいか考えよう。				
・活動①安全に避難する方法を話し合う。	12	個人・グループ活動 ○安全に避難する方法を話し合わせる。 ・各自の考えをワークシートに記入した後、グループで話し合わせる。	B③  C⑤	マップ ワークシート ホワイトボード
・活動②グループで発表する。	15	交流活動 ○ポイントのメモを取らせながら発表を聞かせる。		
まとめ ・グループで出た意見をまとめる。 振り返り ・ワークシートに感想を書き、感想の交流をする。	10  7	・4つの視点（避難経路、周囲への声かけ、避難場所、持ち物）でまとめをする。  ○2～3名程度、感想発表させる。		ワークシート

# 被災地研修(宮城県)



- 被災地研修  
事前学習

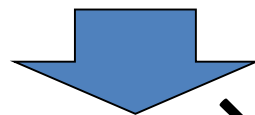
- 被災地研修(仙台市、岩沼市、  
名取市、石巻市 8/21~23)

- 被災地研修  
学級報告会



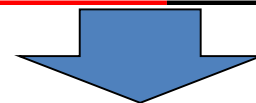
# 避難訓練

- 垂直避難訓練(屋上) → 高い津波に**対応不可**
- 5/17(幼小)、6/3(中) → **孤立**する可能性あり



→避難経路が**崩壊**  
する可能性あり

→窪地を通過することで  
流される可能性あり



- 幼小  
訓練

**学校裏山の  
整備を！**

→さらに**安全な避難**  
**場所の確保**が必要



# 防災教育15時間の単元プランに基づいた授業実践



- 地域の防災士から過去の地震や津波について学ぶ



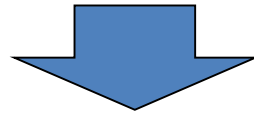
- AED講習会



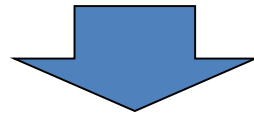
- 通学路点検

# 「防災実践力」の芽生え

- 今年9月の台風18号の水害（流木・土砂・・・）



- 「自分たちで何か地域に貢献したい」（生徒）



- 「ボランティア清掃」（9/21）





平成29年11月12日

「佐伯市地域避難訓練」

## 児童・生徒の参加状況

全校児童(n=130)の

64%

全校生徒(n=81)の、

72%

が避難開始から  
解散まで参加！

参加児童(n=83)の、

100%

参加生徒(n=58)の、

83%

が家族の方々  
と参加！



# さらなる「地域・行政・家庭」との連携

- 防災教育モデル実践事業 「実践委員会」
- 行政・消防・警察・区長・学校防災アドバイザー



- 親子防災教室

## 防災カード

たいせつなことをカードに書いて、いつも持っておきましょう。

記入日 年 月 日 氏名 _____ 生年月日 _____ 血液型 型 [Rh + -] 家族構成 _____ 住所 _____ 連絡先 家 _____ 消防署 _____	火災・救急は119番 警察は110番 災害情報ダイヤル ・番音 171⇒1 + 消防署の電話番号 ・番音 171⇒2 + 警察の電話番号 困ったときには 佐伯市消防防災センター 0972-22-3111 (内線4567) 佐伯警察署 0972-22-2131 消防署 0972-22-3301 警察の連絡先 ① _____ ② _____
---	---

切り取り

サンプル [例です]

記入日 平成29年7月10日 氏名 大嶋 裕子 生年月日 平成20年1月1日 血液型 A 型 [Rh + -] 家族構成 大嶋 裕子 住所 佐伯市曙100番地(中野区1用) 連絡先 家 0972-22-2222 消防署 090-1234-5678	火災・救急は119番 警察は110番 災害情報ダイヤル ・番音 171⇒1 + 消防署の電話番号 ・番音 171⇒2 + 警察の電話番号 困ったときには 佐伯市消防防災センター 0972-22-3111 (内線4567) 佐伯警察署 0972-22-2131 消防署 0972-22-3301 警察の連絡先 ① 中野消防署 ② 中野消防署
--	---

・家族がおちあう、原則的な避難場所です。  
 ・市から配布されている「ハザードマップ」などで地域の避難場所を確かめてください。(いろいろな場合を考え親子で話し合ってください)

- 防災カード
- 引き渡しカード(小)



# 全体構想図

佐伯市立八幡小学校

「ふるさと」とともに未来を拓く児童の育成  
～思考力・判断力・表現力の育成をめざして～

自己決定力  
コミュニケーション力  
行動力

## 防災教育

6学年「防災を考える思いをつなごう」



5学年「防災時の困りと備えについて考えよう」



4学年「防災にかかわる人から学び地域の防災について考えよう」



3学年「防災レンジャーになって防災について学ぼう」

## 地域教育

6学年「地域から世界の人とつながろう」



5学年「米づくり体験から学ぼう」



4学年「地域の自然・環境について学ぼう」



3学年「芋作り体験から学ぼう」

## キャリア教育

6学年「お世話になった人に感謝しこれからの生き方を考えよう」



5学年「地域産業に携わる人の思いを知り自分を見つめよう」



4学年「地域のために働く人の思いを知ろう」



3学年「伝統・文化を守る人から学ぼう」

「ふるさと」を知り、ともに未来を拓く  
(地域・協働・感謝・郷土)

主体的・探究的な子どもの活動

# カリキュラム・マネジメント

- 1 **教科横断的な視点**
- 2 **P D C A サイクルの確立**
- 3 **人的・物的資源等の効果的な組み合わせ**

## 各教科等と総合的な学習の時間との関連

各教科等で身に付けた知識や技能を総合的な学習の時間において活用することによって、身に付けた知識や技能は確かに一層生きて働くようになる。一方、総合的な学習の時間での学習活動やその成果が、各教科等の学習活動の意欲を高めたり学習を促進したりする。総合的な学習の時間と各教科等との関連を意識した学習活動を工夫することが大切である。 [今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開]

# 小学校総合的な学習の時間の単元計画【第5学年】

単元のねらい: 地域の人々の思いについて、「ふるさと」八幡小学校の校区で、さまざまな産業に従事する人々の話を聞いたり、昔のことを調べたりすることを通して知ると共に、学んだことを、自分の生活と結びつけたり、比べたりしながら、これからの生き方を考えることができる。

## 単元のめあて: 地域の人々の思いを知ろう

### 防災教育

小単元のめあて: 西幡地区のみんなにやさしい防災への備えについて考えよう

#### 課題

・八幡小学校校で昔起こった再議についての話を聞いたことをもとに、災害時の困りを考え、災害に備えよう。

#### 情報収集

・地域で発生しやすい災害や過去におきた災害について話を聞く。  
・東日本大震災での被災地の様子を調べる。

#### 整理・分析

・災害時には、ライフラインが使えないことを想定し、どんな困りがあるか考え、そのための備えについて考える。

#### 表現

・調べたこと考えたことをまとめて、発表する。また、家庭での備えを行う。

#### まとめ・振り返り

・相互評価をおこない、生活に生かす。

15時間

### 地域教育

小単元のめあて: 米づくり体験から学ぼう

#### 課題

・昔から日本で行われている稲作を体験し、米やわらを使った日本の文化にふれよう。

#### 情報収集

・地域の人から米作りの話を聞き、田植えの準備や手順を知る。

#### 整理・分析

・田植えをし世話をする。  
・収穫までの稲の世話の仕方を学習する。  
・収穫する。また、米やわらを使った日本の文化を調べる。

#### 表現

・米の栄養について調べ、料理をしたり、もちつきをしたりする。  
・わらを使って、しめ縄作りをする。

#### まとめ・振り返り

・米づくり体験から学んだことを、まとめ発表する。

20時間

### キャリア教育

小単元のめあて: 地域産業に携わる人の願いを知り、自分を見つめよう

#### 課題

・地域にある工場や造船所を訪ね、仕事やそこで働く人たちの思いを知ろう。

#### 情報収集

・地域にある工場や造船所を訪ね、仕事やそこで働く人々の思いや願いについて聞く。

#### 整理・分析

・地域で働く人たちの仕事や生き方を自分と比較しながらまとめる。

#### 表現

・出会った人から学んだことを、自分の生活と結びつけたり、比べたりしながら発表する。

#### まとめ・振り返り

・自分を見つめ直し、これからの生活にいかす。

15時間

単元の振り返り:

# 小学校総合的な学習の時間単元計画【第5学年：防災教育】

【単元のねらい】地域で発生しやすい災害を調べ、災害時に予想される困りと、その備えについて考え、実践しようとする態度を育てる

【単元のめあて】西幡地区のみんなに優しい防災の備えについて考えよう

課題

【課題の設定】「南海トラフ地震って本当にくるのか」  
1【めあて】東日本大震災の再現アニメを見て、身近な災害を考えよう。  
2【めあて】自分の地域で災害が起きたことを想定して、調べてみたい課題を考えよう

情報  
収集

【情報の収集・整理・分析1】「地域で発生しやすい災害について調べよう」  
1【めあて】西幡地区の地図を見ながら、自分たちの住んでいるところがどのような地形にあるかを考え、発生しやすい災害を予想しよう。  
2【めあて】ゲストティーチャー（防災士）を招き、過去佐伯でおこった災害について話を聞き、もっと調べてみたいことを話し合おう。  
3・4【めあて】聞き取りや本・ネットでの検索により調べてまとめよう。  
5【めあて】グループで調べたことをまとめ、学級で交流し、次の課題を考えよう。  
【情報の収集・整理・分析2】「災害時の困りと避難場所での生活を考え、必要な準備を考えよう」

整理  
分析

1【めあて】地震・津波が起こった時、避難場所ではどんな困りがありそうか予想しよう。  
2【めあて】前時に話し合った「困り」に対応するための方法や備えについて、考えたり、調べたりしよう。  
3【めあて】考えたことを整理し、まとめたものを、専門家（防災士等）をGTとして招き、聞いてみよう。  
4【めあて】聞いたことをもとに、再度、避難の方法や準備について考え直そう。

外国語

【まとめ・表現】「調べたこと・考えたことを知らせよう」  
1 2【めあて】学習したことをまとめ、発表するための準備と練習をしよう。  
3【めあて】調べたこと・考えたこと発表し合おう。

まとめ  
表現

総合的な学習の時間と英語科の横断的学習「5年英語単元プラン」  
一人の犠牲者も出さない！みんな助ける、助かる！をキーワードに、  
言葉の壁を乗り越える手立てとして、英語科での学びを活かす。

まとめ  
振り返り

まとめ  
振り返り

まとめ  
振り返り

まとめ  
振り返り

まとめ  
振り返り

「人の犠牲者も出さない」を焦点にして「広めるため」の視点が  
明確になる。

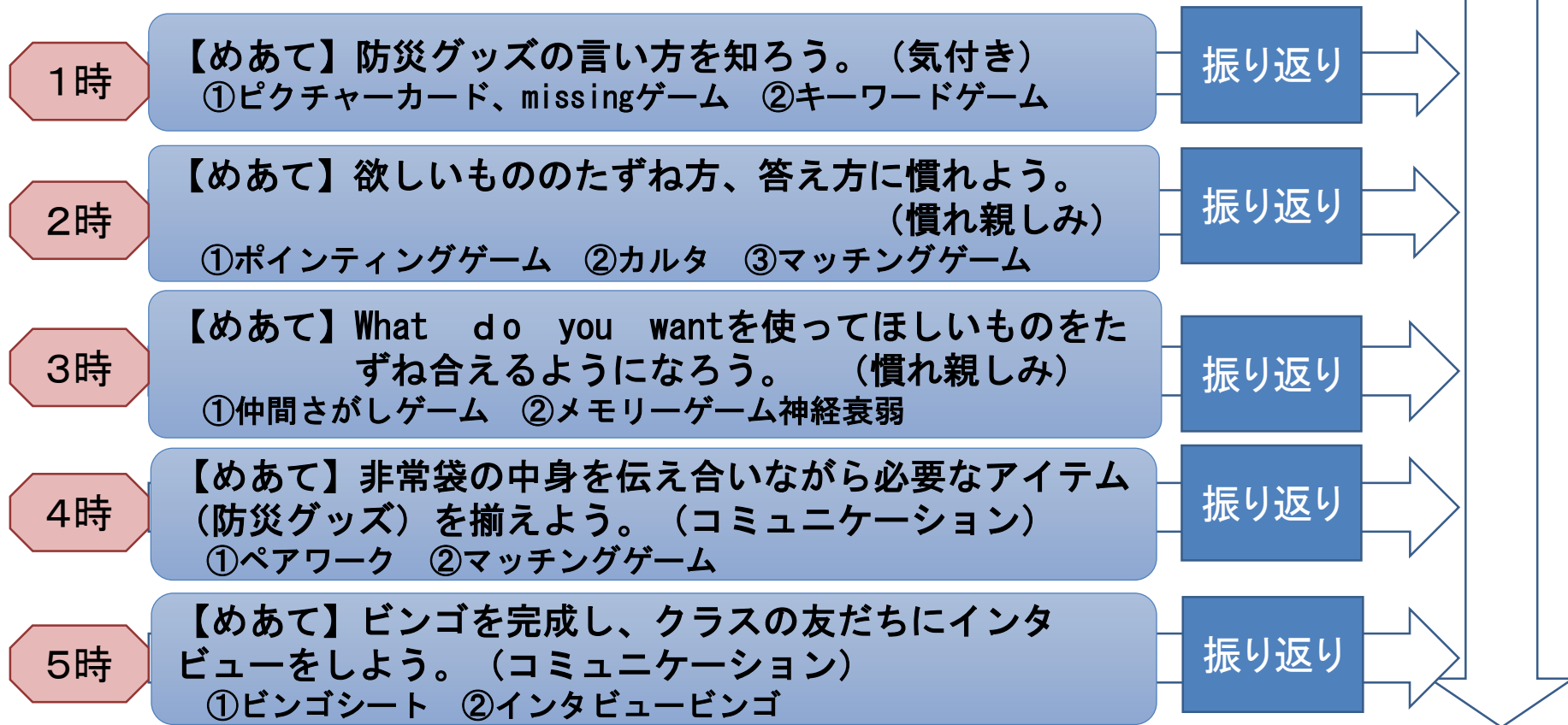
【単元の振り返り】災害が起こったときに、避難するときに必要なグッズを考えることができた。  
西幡地区に住んでいる方はさまざまな国籍を持つ方がいらっしゃるということがわかったし、もしものときに備えて、防災の備えについていろんな方々と会話できるようになっておきたいと思った。



# 小学校外国語科単元計画【第5学年】

【単元のねらい】防災グッズや欲しいものの言い方を知り、自分の防災バッグの中身について伝え合おうとする力を養う。

【単元のめあて】What do you want? ~My 防災グッズに必要なグッズを揃えよう~  
(5時間扱い)



## 【単元の振り返り】

- ・英語の内容に合った絵を選ぶことができたか。
- ・音と文字のつながりを意識しながら書かれた単語の読み方を推測できたか。
- ・What do you want?などを使って伝え合えたか。

# 外国語「防災グッズや欲しいものの言い方を知り、自分の防災バッグの中身について伝え合おうとする力を養う」



# 小学校総合的な学習の時間の単元計画【第4学年】

単元のねらい:「ふるさと」八幡小学校の校区のひと・もの・ことについて、地域にくらす人々との出会いを通して、学んだことを生活にいかそうとする気持ちを養うことができる。

## 単元のめあて: 地域の人々から学ぼう

### 防災教育

小単元のめあて: 防災にかかわる人から学び、地域の防災について考えよう

#### 課題

・人々の安全を守る仕事にかかわる人の話を聞き、災害への備えを考えよう。

#### 情報収集

・地域で過去におきた祭儀について話を聞く。  
・地域の避難経路の様子を調べる。

#### 整理・分析

・情報収集をもとに、どのように、どこに避難すればよいか考え、その避難経路を歩いて検証してみる。

#### 表現

・調べたこと考えたことをまとめて、発表する。

#### まとめ・振り返り

・学んだことを、生活に生かす。

15時間

### 地域教育

小単元のめあて: 地域の自然・環境について知ろう

#### 課題

・身の周りの環境にかかわる学習を通して自分にできることを考える活動を確認する。

#### 情報収集

・自分の家や地域の店、公園などに見られるごみの現状を調べる。  
・エコセンターの見学でごみの収集について知る。

#### 整理・分析

・調べたことをもとに課題を把握する。  
・自分たちにできる活動を考える。

#### 表現

・全校集会で、学んだことを発表し、改善にむけた行動を呼びかける。

#### まとめ・振り返り

・学んだことを生活に生かす。

15時間

### キャリア教育

小単元のめあて: 地域のために働く人の思いを知ろう

#### 課題

・地域のために働いている人の思いを知ろう。

#### 情報収集

・地域で働く人を訪ね、インタビューし、働く人の思いを聞く。

#### 整理・分析

・自分がであった人の仕事への思いを中心に、まとめる。

#### 表現

・自分の未来像を描き、地域や保護者にむけて発表する。(1/2成人式)

#### まとめ・振り返り

・自分の夢や将来について考える。

20時間

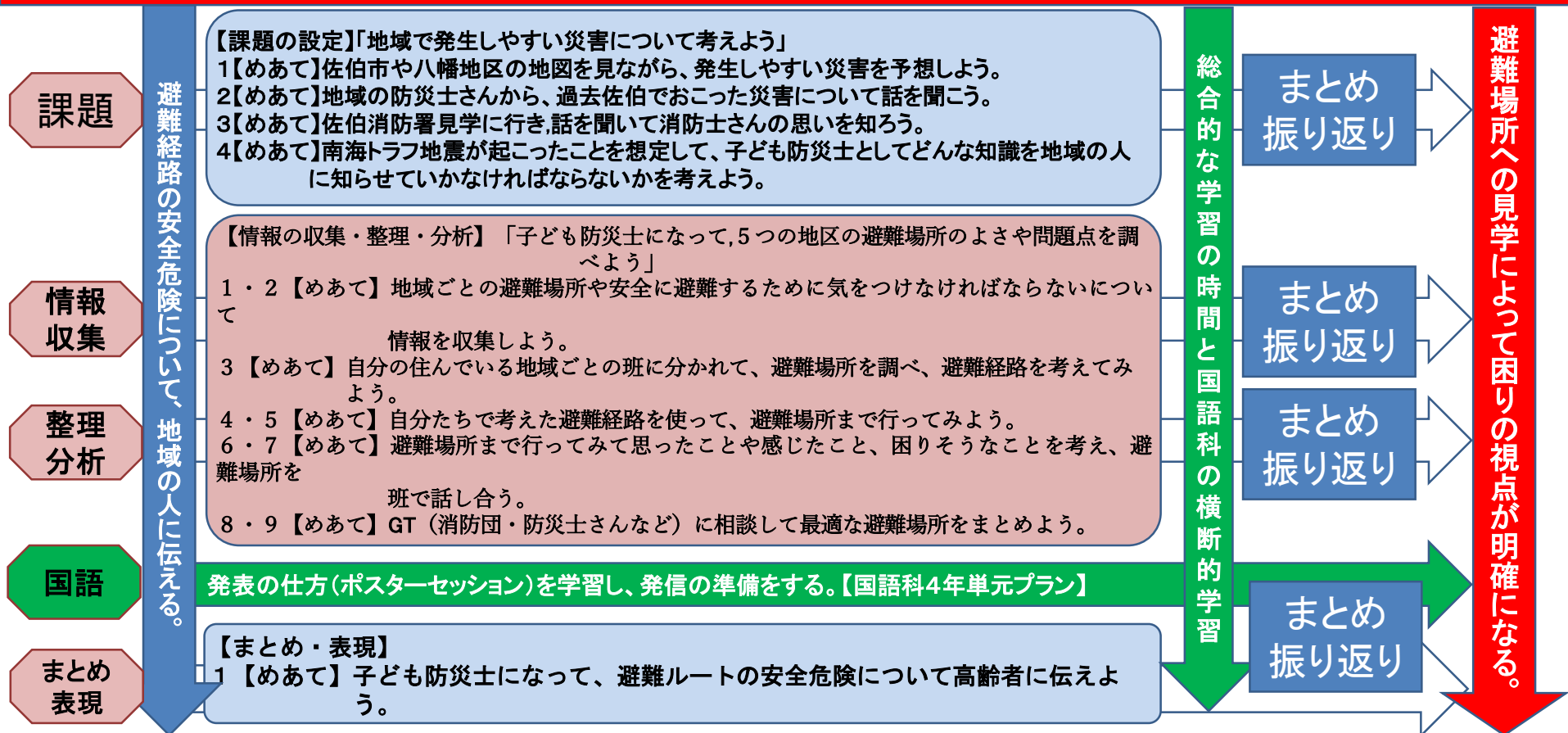
単元の振り返り



# 小学校総合的な学習の時間単元計画【第4学年：防災教育】

【単元のねらい】 地域で発生しやすい災害を調べ、災害時に予想される困りと、その備えについて考え、実践しようとする態度を育てる。

【単元のめあて】 防災にかかわる人の思いを知り、地域の防災について考えよう

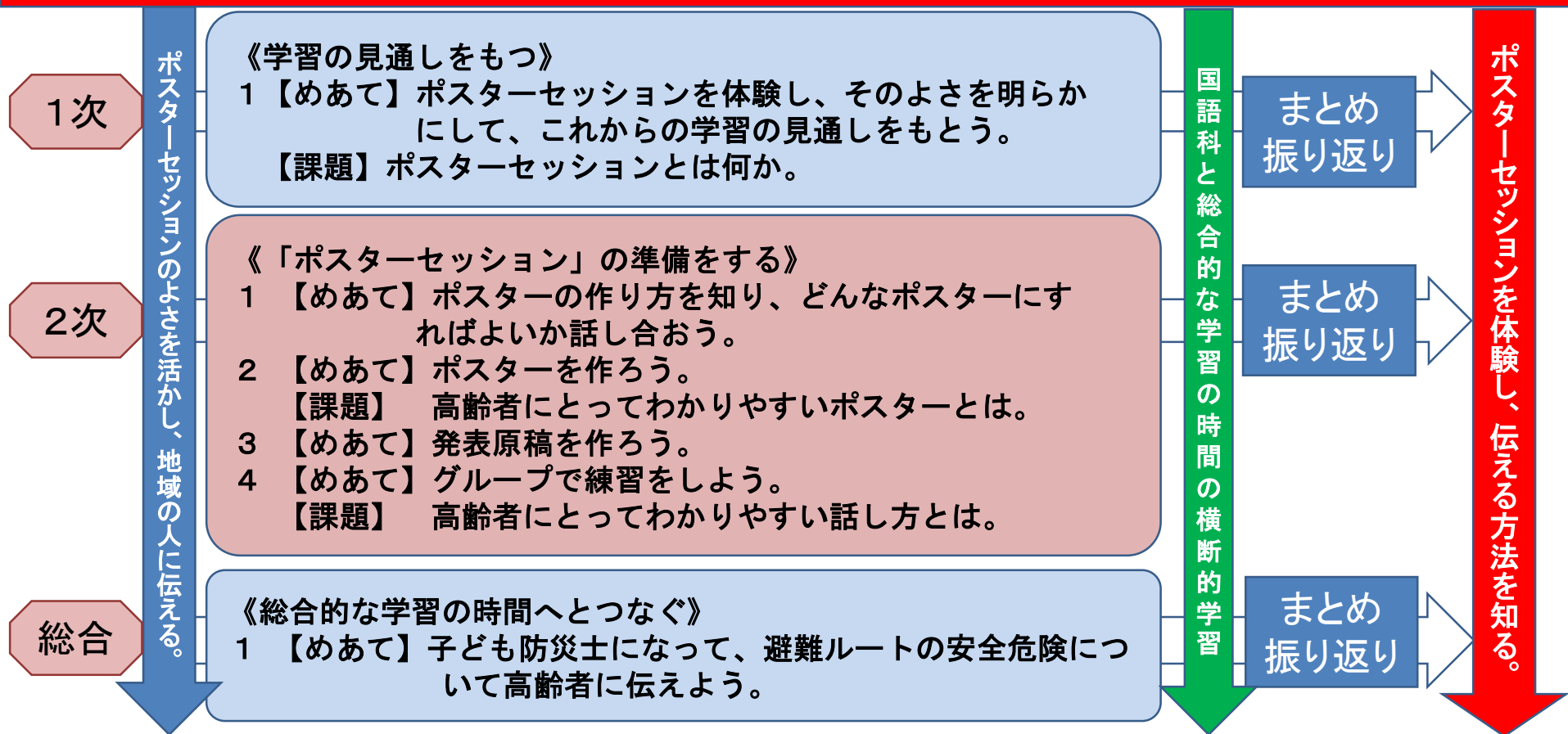


【単元の振り返り】 災害が起こったときに、避難することに困りを抱える高齢者たちのために国語科で学んだポスターセッションで伝えることができた。自助を第一に考えながら、共助という面において、手助けできることを自分なりに考えておきたいと思った。

# 小学校国語科単元計画【第4学年：話すこと聞くこと】

【単元のねらい】総合的な学習の時間で調べてきた防災に関する避難ルートの安全危険について地域の人に伝える力を養う。

【単元のめあて】子ども防災士になって、調べたことを地域の人に伝えよう



【単元の振り返り】ポスターセッションを体験することで、ポスターセッションの良さがわかった。短時間で相手に伝えることができるし、ポスターをいつでも見ることができるので、あとで質問もできる。何より、人とふれあいながら会話できるのがよいと思った。

# 総合的な学習の時間

## 「防災にかかわる人の思いを知り、地域の防災について考えよう」



一人一人の子どもたちに  
目的意識・相手意識を  
もたせることができた



地域のお年寄りに  
知らせたい！！

### 【課題の設定】

「地域で発生しやすい災害について考えよう」

- ・発生しやすい災害の予想
- ・過去の災害についての話
- ・消防士さんの思い・子ども防災士として

### 【情報の収集・整理・分析】

「子ども防災士になって、5つの地区の避難場所  
のよさや問題点を調べよう」

- ・避難場所や安全に避難するために
- ・避難経路を考える・避難場所まで歩いて調査
- ・避難場所を話し合う



# 国語 「子ども防災士になって、調べたことを地域の人に伝えよう」



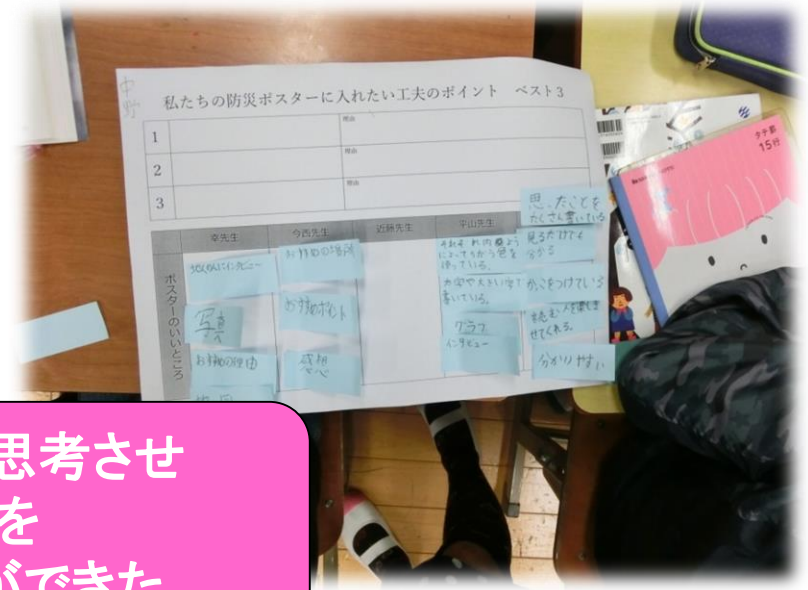
教師のモデル提示から  
単元のゴールイメージを  
もたせることができた

**【めあて】** ポスターセッションを  
体験し、そのよさを  
明らかにして、これから  
の学習の見通しをもとう。



ポスターセッションが  
どんなものかが  
わかった！

# 国語 「子ども防災士になって、調べたことを地域の人に伝えよう」



多くの視点から思考させ  
ポスターの内容を  
考えさせることができた



**【めあて】** ポスターの作り方を知り、  
どんなポスターにすれば  
よいか話し合おう。

お年寄りにとってわ  
かりやすいポスター  
とは・・・。



# 国語 「子ども防災士になって、調べたことを地域の人に伝えよう」



ポスターのレイアウト  
字の大きさ、言葉の使い方を  
意識させることができた



**【めあて】** ポスターを作ろう。  
**【めあて】** 発表原稿を作ろう。

お年寄りの姿を思い  
浮かべながら・・・。

# 国語 「子ども防災士になって、調べたことを地域の人に伝えよう」



話す立場、聞く立場に立たせ  
「知らせる」ということを具体的に  
イメージさせることができた

**【めあて】 グループで練習を  
しよう。**

聞こえるかな？  
わかりにくいところは  
ないかな？







# 総合的な学習の時間

## 「防災にかかわる人の思いを知り、地域の防災について考えよう」



自分が子どもの頃はここまで防災について考えたことはなかった。子どもたちに刺激をもらった。頼もしい。



### 【まとめ・表現】

「子ども防災士になって、避難ルート  
の安全危険について高齢者に伝えよう」

- ・ポスターセッション  
(各地区ごとに)
- ・質問
- ・感想

子どもたちが地域への愛着を感じ、活動に対する達成感をもった

# 成果と課題

## ◇カリキュラム・マネジメント(社会に開かれた教育課程)

- それぞれの教科等の学習において、相手意識、目的意識をもつとともに、活動の必要感を感じる事ができた。
- 自分たちの地域のことを調べ、追究する中で「八幡に残りたい」「八幡が好きだ」という思いになった。
- 「八幡・彦陽モデル」の改訂、付けたい力、資質・能力の明確化、さらに探求的な総合的な学習の時間へと高めていく必要がある。

## ◇地域とともにある学校づくり(連携と協働)

- 地域の方に聞き取り、発表をする活動をするこ  
とが、自分たちが取り組んだことへの達成感へつ  
ながった。
- 継続して取り組むべき課題を明確にし、小・中が  
一貫して共有・協働すべきこと、家庭・地域と連  
携・協働すべきことを明らかにしなければならない。  
い。
- 具体的にどのように学校と地域が協働して進め  
ていくのかなどの協議・検討の必要性がある。



## ◇成果指標 防災教育に係る児童生徒アンケートから

学校にいて地震が発生したとき、どうすべきか知っていますか。	95.6%
-------------------------------	-------

緊急地震速報を受けて、自分の命を守るために適切な行動がとれていますか。	85.2%
-------------------------------------	-------

垂直避難訓練や高台避難訓練を積み重ねた効果が認められる。しかし、低学年ほど具体的な身を守るための行動・実践力に課題があることがわかった。

家にいて地震が発生したとき、どうすべきか知っていますか。	89.2%
------------------------------	-------

屋外にいて地震が発生したとき、どうすべきか知っていますか。	68.9%
-------------------------------	-------

地震がおさまってからまわりの人のための行動がとれますか。	58.8%
------------------------------	-------

ほとんどの児童・生徒が、家でのとるべき行動を理解しているといえる。一方、屋外での発災時の対応や、自分の身の安全の確保(自助)後の共助・公助については、課題があることがわかった。今後の防災ボランティア等の活性化も必要だと考える。